

プロジェクト情報

- 国名：パレスチナ
- 事業名：母子保健に焦点を当てたりプロダクティブヘルス向上プロジェクト、母子保健リプロダクティブヘルス向上プロジェクト・フェーズ2（技術協力プロジェクト）
- 協力期間：2005年から2012年
- 相手国機関：保健庁

1. プロジェクトの概要・背景

パレスチナでは、紛争や分離政策（分離壁や検問所、外出禁止令）により人々の移動が制限されており、新たにできた分離壁や検問所により、これまでの病院や保健所に通えなくなる女性も少なくありません。移動制限や経済的な事情などから、妊婦健診や出産、子どもの予防接種を複数の医療施設で受診する女性が多くいます。

医療施設には、保健庁のほか、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）、NGO、民間が運営する施設がありますが、母子保健サービスが独自の形で提供され、記録方法も統一されていないため、母子が継続したサービスを受けにくい状況でした。

そこで、母子の保健医療施設へのアクセスと継続的な母子保健ケアの向上のために、プロジェクトでは2005年に世界初のアラビア語母子健康手帳の開発を開始しました。フェーズ2では、母子健康手帳（以下「手帳」）活用のための仕組みづくり、パレスチナ全土での手帳の活用、母子保健従事者への技術訓練を支援しました。手帳は、2008年からヨルダン川西岸地区全域で、2009年からはガザ地区でも使われています。

2. 母子健康手帳の機能**(1) 携帯可能な医療記録**

母子が妊娠、出産、産後、乳幼児期に複数の医療機関にかかることがあっても、継続したケアを受けられるように「パレスチナの全ての妊婦に一冊の母子健康手帳を」の基本方針が取られています。また、医療記録の継続性が保たれるよう、一人の子が一冊の手帳を使い続けるということも徹底されました。複数の手帳を使用すると、医療記録が同一の手帳に書き込まれなくなってしまうからです。

(2) 母子保健サービスの統一

手帳は、保健庁、UNRWA、そして主なNGOによって承認、活用されており、母子保健サービスの内容

や記録方法を複数の機関で統一し、母子の継続的なケアを推進する重要なツールとしての役割を果たしています。手帳の効果的な活用を目指して関係機関との調整と協働を促進するために、母子健康手帳国家調整委員会が2009年に設立されました。

(3) 健康教育教材

手帳には、妊娠、出産、産後ケア、家族計画、そして子どもの健康に関する情報が含まれています。保健医療従事



者は、手帳を使って健康教育やカウンセリングを行います。また、女性やその家族が手帳を読んで、自分自身や子どもの健康で気になることを保健医療従事者に相談できるようになることで、主体的に健康に関する重要な情報を得られ、女性自身が医療記録を管理できるようになっています。手帳は、家族に対する健康教育教材として、母子保健に関する意識を高め、母子の健康の増進にも役立つと考えられます。

3. ジェンダー視点から見た母子健康手帳の効果**(1) 女性の意思決定への参加**

女性は、手帳を通じて自分自身や子どもの健康に関する知識を得ることで、家庭内での健康管理や子育てについて自信を持って意見を言えるようになりました。また、子どもの数は多いほうがいいという伝統的価値観から、以前は配偶者間でも家族計画について話し合う機会はあまりありませんでしたが、手帳をきっかけに次の子どもがいつほしいか、どのような避妊方法を選びたいか、といったことを夫と話し合う機会ができました。

(2) 男性の参加

パレスチナ版の手帳には、表紙をはじめ各ページのイラストに母子だけでなく、父親も描かれています。手帳の導入後、子どもを予防接種や乳児健診に連れてくる男性が増えました。また、夫が手帳を見て、栄養のある食物を買ってきてくれるようになったという事例もあります。

手帳は、UNRWAによってレバノン、シリア、ヨルダンのパレスチナ難民キャンプでも配布、活用されています。これにより、パレスチナの人々は、国境を越えても継続的なサービスを受けられるようになり、多くの女性や子どもの命が守られました。母子健康手帳は、「生命（いのち）のパスポート」と呼ばれています。